

資料2

1. 中学生ミーティング結果報告

1. 開催概要	
開催日時	2024年6月10日（月） 16：15～17：30
開催場所	京田辺市役所4階 403会議室
参加者	京田辺市立中学校（3中学校）生徒13名
総合進行	浦田委員
担当 当内	田辺中：淺山委員、大住中：奥出委員、培良中：佐藤委員 容 市立中学校の生徒から意見を直接聴取した。
(事前準備)	
参加予定の生徒には、生徒数の偏りの問題について地域別懇談会の時の資料を基にした中学生版の資料等を配付し、説明動画を視聴してもらった上で、問題点や解消のための意見を考えてもらつた。なお、広く意見を聞くべきであると考え、当日までにたくさんの生徒の意見を聞いて集めてきてもらうようお願いした。	
(ミーティング当日)	
学校ごとに分かれて、各担当委員1名と教育委員会事務局職員1名が入り、生徒から次の点について意見を述べてもらった。	
・学校生活を通して今、感じていることは？ ・あなたが審議会に参加しました。アイデアや発言したいことは？	
備考	委員4名で打合せ（4/20、5/11、6/6、6/17、6/24）を行い、開催準備を進めるとともに、意見を出しやすい雰囲気づくりのための工夫について話し合った。

2. 生徒の意見まとめ	
【偏在に関して】	そもそも生徒たちは、自分たちの学校を他校と比べる機会がないため、偏在化が問題であるという意識はほとんど見受けられなかった。大規模校の田辺中学校は大人数なりの良さがあるものの問題点も挙がった。大住中学校ではそういった問題が極端に少なく、小規模校の培良中学校では少人数ならではの良さが多く挙がっていた。
つまり、生徒たちの意見として言えることは、各学校共に、学校生活に課題はあるものの、学校の良い部分を自らの言葉で表現し、学校をより良くするためのアイデアをたくさん持っているが、それらを発言する場・コミュニケーションを取る手段が少ないと感じている現状があること。そして、そのような機会を設けて欲しい、ということだと考えられる。	

今回 生徒たちからは、偏在問題とは直接関係のない意見もたくさん聴かせてもらった。どれも貴重な意見であるため、できるだけ割愛せず報告させてもらった。

【ミーティングを実施して】

- ・驚くほど活発に意見が出た。(大きな模造紙2枚が埋まった中学校もある)
- ・最後、生徒の感想では「これまで、こんな風に自由に自分たちの意見を出して聞いてもらえる場がなかったのでとても嬉しかった」との言葉も聞けた。
- ・各中学校間の交流が生まれ、文化祭や校則等について生徒同士の意見交換も行われた。終了後、生徒から「みんなで写真を撮りませんか」との提案があり、全員で集合写真を撮影した。(今後も繋がりを持って連携していくきたいとの希望あり)

3. 各学校の生徒の意見を担当委員がまとめたもの

【田辺中学校】

- ・生徒数が多いというメリット、デメリットは学校生活を通して実際に感じている。しかし、「学校間の偏在」という課題認識はない。
- ・なぜなら、「田辺中学校のよいところ」に掲げているとおり、現状の学校生活が、「総じて楽しく、よりよくするためにどうすればいいか」のアイデアは多くある。
- ・「改善したいところ」「困っていること」を一つ一つ生徒だけでなく学校全体でじっくり話し合い、具体的に実現したり、困っていることを解決したり、現状が豊かなものであると感じることなどを、学校生活の中で選択することが、「よきところ田辺中学校」をより良く育むことであるといったことがとても大事だと考えます。

【大住中学校】

- ・人数により困っていることは特にない。先生と生徒の距離も近く、生徒同士の関係性も良好であり、学校生活において、理想的な人数だと考える。
- ・生徒たちの第一声が、学校施設の老朽化と、それにより快適な学習環境が整っていないことに対する不満であったため、そこに対する改善をした方が良いと考える。
- ・学校全体が一丸となり「文化祭」を開催するなどし、異学年同士の縦のつながりを作っていくとの希望があり、そうすべきだと考える。
→総じて、学校生活をよりよくするための考え方、仕組みを講じることを生徒が望んでいることが分かった。

【培良中学校】

- ・小規模校というイメージを感じさせないほど、学校生活で困っていることよりも良き部分を意見してくれる方が多い場となった。
- ・他校と定期的に交流する機会をつくり、今後の学校生活に生かしていきたいと考える。
- ・生徒自身が考えた文化祭などを通し、京田辺市の事業者とも連携を図り培良中学校の特徴を生かしたアピールをしたいと考える。
- ・子ども達は与えられた環境の中で、より良い学校生活を送るためにアイデアを沢山持っていると考える。

2. 小学生アンケート結果報告

1. 開催概要

開催日時 2024年5月27日（月）～6月14日（金）
調査方法 学校配布のタブレットによるWebでの調査
回答者 京田辺市立小学校（9小学校）生徒92名
担当 説明動画制作：奥出委員、佐藤委員
内容 市立小学校の児童からアンケート形式で意見聴取した。
なお、児童には、アンケートを回答する前に、児童数の偏りの問題に関する説明動画を視聴してもらった。また、児童自身の素直な気持ち、率直な感想を回答してもらえるよう先生方には意見を引き出すサポートをお願いした。

2. 児童の意見まとめ

【偏在について】

学校規模に係る問題意識はどの学校の児童も特には見られなかった。
ただし、こんな学校になればいいなという自由記述の質問では、明るくみんなが仲の良い学校や他の学年や学校ともっと交流がしたい等の様々な意見が寄せられた。

【特徴について】

- ・学校は楽しいか、学校行事やクラブ活動等は楽しめているかを聞いたところ、学校の規模にかかわらず、ほとんど全ての児童が楽しいと回答した。
- ・グラウンドの広さをどう感じるかを聞いたところ、児童の多い学校ではせまいとの回答が7割を超えていた。ただし、児童が少ない学校でもグラウンドがせまいという意見が6割強あるところもあった（※当該学校のグラウンド総面積は小学校設置基準の約1.8倍）。
- ・学年全員の子の名前を知っているか聞いたところ、児童の多い学校ほど全員は知らないとの回答があった。
- ・勉強や自分のなやみを気軽に相談できる先生はいるかを聞いたところ、7割弱がいるとの回答があった。
- ・地域の子ども会の加入を聞いたところ、5割強が入っていないと回答しているが、別に地域の行事への参加状況を聞くと、7割弱が参加しているとの回答があった。